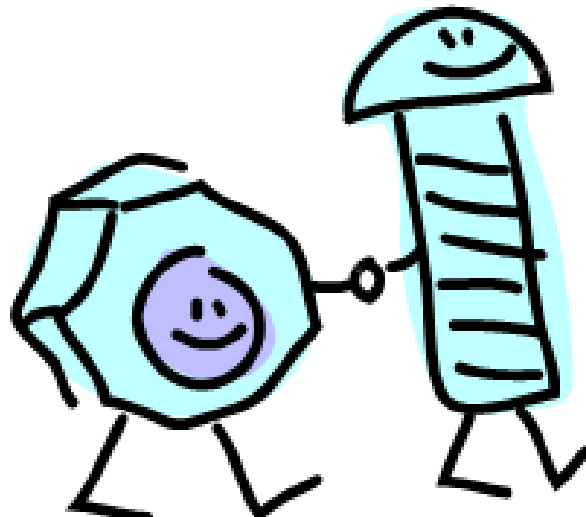


2023年度 環境経営レポート

(対象期間：2023年7月1日～2024年6月30日)



モノづくり応援プロジェクト

作成日：2024年9月25日

改定日：2025年3月17日

小林商工株式会社

目 次

項 目	ページ
1. 組織の概要	1
2. 環境経営方針	2
3. 環境経営組織図及び役割・責任・権限表	3
4. 環境経営目標及びその実績	4-5
5. 環境経営計画及びその評価・次年度の計画	6-8
6. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反・訴訟等の有無	8
7. 代表者による全体の見直し・指示	8

1. 組織の概要

- 事業所名及び代表者氏名

小林商工株式会社
代表取締役社長 小林 真一

- 所在地

本 社 : 神奈川県横浜市神奈川区栄町 20-1 YMPF101
いずみ野工場 : 神奈川県泉区和泉中央北5-25-18

- 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 友井 三夫 TEL : 045-620-5368 FAX : 045-620-5182
Eメール : tomoi@kobasho.co.jp

担当者 : 永吉 正人 TEL : 045-620-5368 FAX : 045-620-5182
Eメール : nagayoshi@kobasho.co.jp

- 事業活動の内容

鋸螺及び関連部品の製造・販売、通信及び光学機器用精密部品の製造・販売

- 事業の規模

主要製品の売上高 29,177万円/2023年度

	本社	いずみ野工場		
従業員数	12名	5名		
延床面積	123.57 m ²	300.24 m ²		

□対象範囲

当社は全組織・全活動及びその全従業員を対象としています。

2. 環境経営方針

〈環境経営理念〉

小林商工株式会社は、鋳螺及び関連部品の製造・販売、通信及び光学機器用精密部品の製造・販売を通じてお客様の要望に応え地域社会から信頼される企業を目指します。同時に、事業活動を展開することは環境への負荷をもたらすものであり、広く環境対策に取り組むことが重要であると考えています。

このような認識のもと、全ての事業活動を通じて継続して温室効果ガス削減をはじめとする環境保全対策に取り組むとともに省資源対策にも取り組み、持続的な発展が可能な社会づくりに貢献していきます。

〈基本方針〉

環境に関連する法規制・条例等を遵守し、環境経営の継続的改善を図りながら、下記事項に取り組みます。

1. 節電と化石燃料の節約を進め、二酸化炭素排出量を削減し、地球温暖化防止に努めます。
2. 省資源による仕事を進めるように努め、廃棄物の発生量を低減します。
3. 節水に努め、水使用量を低減します。
4. 化学物質の適正管理に努めます。
5. 環境に配慮した鋳螺並びに関連部品の製造、販売に努めます。
6. グリーン購入を推進することにより、環境に配慮した調達を進めます。

社内要所に環境経営方針を掲示し、全従業員にエコアクション 21 環境経営方針を周知します。

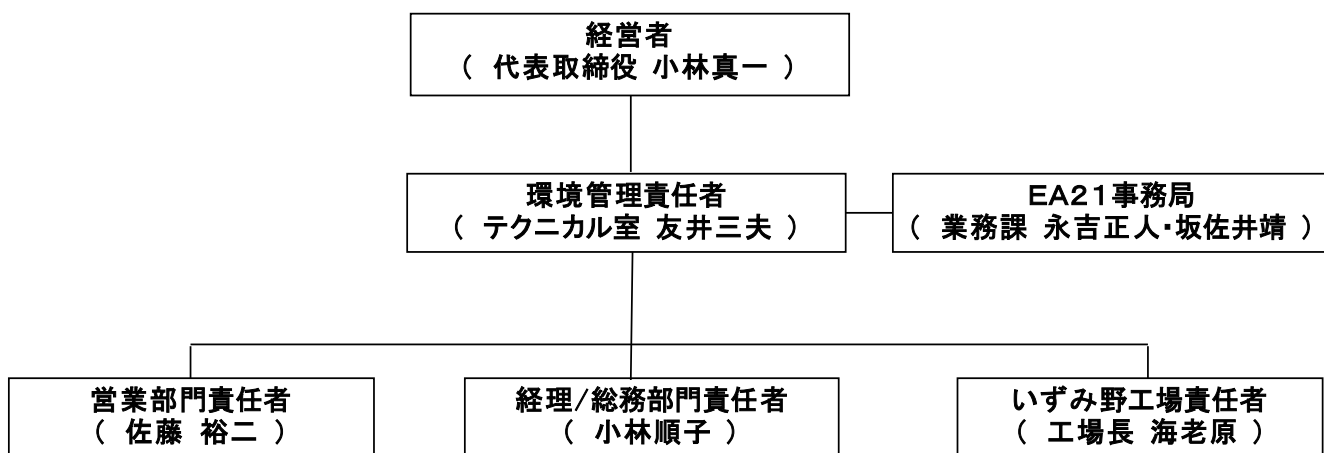
制定日 2018年7月23日

小林商工株式会社

代表取締役 小林 真一

3. 環境経営組織図及び役割・責任・権限表

環境経営実施体制表



対象者	役割、責任及び権限
代表者	1. 取り組みの対象組織・活動の明確化(要求事項1) 2. 代表者による経営における課題とチャンスの明確化(要求事項2) 3. 環境経営方針の策定、全従業員に周知(要求事項3) 4. 実施体制の構築(要求事項7) 5. 代表者による全体の評価と見直し・指示(要求事項14) 6. 環境経営レポートの承認
環境管理責任者 (EA21事務局)	1. 環境負荷と環境への取組状況の把握及び評価(要求事項4:事務局担当) 2. 環境関連法規の取りまとめ(要求事項5:事務局担当) 3. 環境経営目標及び環境経営計画の策定(要求事項6) 4. 環境コミュニケーションの実施(要求事項9) 5. 取組状況の確認・評価、並びに問題の是正及び予防(要求事項13) 6. 文書類の作成・管理(要求事項12:事務局担当) 7. 環境経営レポートの作成・公表(事務局担当)、確認(環責)
部門責任者	1. 教育・訓練の実施(要求事項8) 2. 実施及び運用(要求事項10) 3. 環境上の緊急事態への準備及び対応(要求事項11)
全従業員	1. 環境経営方針の理解及び環境問題の現状と環境への取組の重要性の認識 2. 環境経営目標、環境経営計画などに基づくEA21活動の実施 3. EA21活動に関する提案

(回覧ルート)

社長→環境管理責任者→EA事務局→部門責任者

改版履歴

版数	改定理由	改定月日	承認	作成者
1	営業部門及びいずみ野工場の責任者変更の為	2022/7/15	友井	永吉

4. 環境経営目標及びその実績

4-1. 環境経営目標(本社)

	2017年度 基準年度 ★は2018年度	2023年度	2024年度	2025年度
1.二酸化炭素排出量削減				
・電気 (kg-CO2)	4,976	6%削減	2023年度実績-1%	2023年度実績-2%
・ガリリ (kg-CO2)	26,438	6%削減	7%削減	8%削減
・都市ガリ (kg-CO2)	758	6%削減	7%削減	8%削減
・CO2合計 (kg-CO2)	32,172	6%削減	2023年度実績-1%	2023年度実績-2%
2.廃棄物排出量削減				
・一般廃棄物 (kg)	532	6%削減	7%削減	8%削減
3.水使用量削減 (m ³)	59	現状維持		
4.ROHS対応品販売 (%)	★84.7	6%増加	7%増加	8%増加
5.グリーン購入 (%)	38.9	実績把握	実績把握	実績把握

※基準年度は、2017年7月～2018年6月

※CO2排出係数は、H28年東京電力Iガ[®]-パ[®]-トナ[®](株)の調整後排出係数0.474Kg-CO2/kWhを使用した。

※★は2017年度未把握の為、2018年度を基準年度とした。

4-2. 環境経営目標(いずみ野工場)

	2018年度 基準年度 ★は他年度	2023年度	2024年度	2025年度
1.二酸化炭素排出量削減				
・電気 (kg-CO2)	37,287	5%削減	2023年度実績-1%	2023年度実績-2%
・液化石油ガリ (kg-CO2)	256	5%削減	6%削減	7%削減
・CO2合計 (kg-CO2)	37,543	5%削減	2023年度実績-1%	2023年度実績-2%
2.廃棄物排出量削減				
・一般廃棄物 (kg)	★190 (2022年度)	210kg以下	210kg以下	210kg以下
3.水使用量削減 (m ³)	169	現状維持		
4.化学物質適正管理 (kg)	792	594kg以下	594kg以下	594kg以下
5.製造不良数改善 (件)	13	10件以下		
6.グリーン購入 (%)	★38.9 (2017年度)	実績把握	実績把握	実績把握

※基準年度は、2018年7月～2019年6月

※CO2排出係数は、H28年東京電力Iガ[®]-パ[®]-トナ[®](株)の調整後排出係数0.474Kg-CO2/kWhを使用した。

※★は全社共通目標の為、2017年度を基準年度とした。

4-3.運用結果（2023年度）

		基準年度	目標	実績	評価
1.二酸化炭素排出量削減					
・電気 (kg-CO2)	本社	4,976	6%削減	5,153	×
	いずみ野工場	37,287	5%削減	45,648	×
・ガソリン (kg-CO2)	本社	26,438	6%削減	21,105	○
	いずみ野工場	-	-	-	-
・都市ガス (kg-CO2)	本社	758	6%削減	469	○
	いずみ野工場	-	-	-	-
・液化石油ガス (kg-CO2)	本社	-	-	-	-
	いずみ野工場	256	5%削減	160	○
・CO2合計 (kg-CO2)	本社	32,172	6%削減	26,727	○
	いずみ野工場	37,543	5%削減	45,808	×
	会社全体	69,715	6%削減	72,535	×
2.廃棄物排出量削減					
・一般廃棄物 (kg)	本社	532	6%削減	385	○
	いずみ野工場	190	210Kg以下	207	○
3.水使用量削減 (m ³)	本社	59	現状維持	73	×
	いずみ野工場	169	現状維持	116	○
4.化学物質適正管理(kg)	本社	-	-	-	-
	いずみ野工場	792	594Kg以下	594	○
5.ROHS対応品販売 (%)	本社	84.7	6%増加	90.9	○
	いずみ野工場	-	-	-	-
6.製造不良数改善 (件)	本社	-	-	-	-
	いずみ野工場	13	10件以下	6	○
7.グリーン購入 (%)	本社	38.9	実績把握	30.0	-
	いずみ野工場				

○目標達成 △目標未達成但し基準年度より改善 ×目標未達成

5. 環境経営計画及びその評価と次年度の取組内容

5-1.環境経営計画及びその評価

環境経営計画	取組結果	評価
二酸化炭素排出量削減(電気)		
本社 ①空調温度の適正化(冷房:26℃ 暖房:20℃) ②IAQフィルターの定期清掃 ③クールビズの実施 ④外出時はパソコンの電源をOFF ⑤昼休みの消灯 ⑥遮熱シートの設置	室温管理を徹底でき効果は大きかったと思われる。 定期的に実施したが、回数が少なかった。 クールビズは9月一杯実施した。 徹底して実施する事が出来た。 EA事務局が率先して消灯した。 遮熱効果により冷房の使用を控えることができた。	○ △ ○ ○ ○ ○
いずみ野工場 ①空調温度の適正化(冷房:25℃ 暖房:20℃) ②照明のこまめなスイッチのON・OFF ③残業及び休日出勤の削減	室温管理を徹底できた。 作業の際不要な照明をこまめにOFFにした。 休日出勤を削減する事が出来たが 残業はまだ削減の余地がある。	○ ○ △
二酸化炭素排出量削減(ガソリン)		
本社 ①IDドライブの実施 ②荷物を積む際のアイドリングの実施 ③車両以外の交通手段を併用	手順書を営業車に載せて意識を徹底した。 アイドリングの実施を徹底出来た。 公共交通機関の使用は少なかった。	○ ○ △
二酸化炭素排出量削減(都市ガス)		
本社 ①4~10月は使用しない ②IH運転機能を使用する	4~10月は未使用だった。 使用の際はIHモードで使用した。	○ ○
二酸化炭素排出量削減(液化石油ガス)		
いずみ野工場 ①夏は使用をなるべく控える ②最低温度に設定する	夏場の使用量が大幅に削減できた。 最低温度に設定した	○ ○
廃棄物排出量の削減		
本社及びいずみ野工場 ①B2-用紙の裏紙を使用 ②会議資料は紙ではなくデータで共有する。 ③メール・クラウドを積極的に利用し紙の削減	EA取組前から実施。 会議に使用する紙の削減に効果があった。 会社全体でクラウドを有効活用できている。	○ ○ ○
水使用量の削減		
本社 ①手洗い等の使用の際、水を流しっぱなしにしない	目につくような無駄な使用はなかった。	○
いずみ野工場 ①節水ポスターの掲示 ②節水意識の徹底	流し場に節水ポスターを掲示した。 節水を徹底して行う事が出来た。	○ ○
化学物質適正管理		
いずみ野工場 ①SDSの取り寄せ ②使用量を控える ③溶剤の再利用 ④全廃に向けての対策を検討	SDSを取り寄せ工場にて保管 生産量が増えている為、使用量の削減ができなかった。 溶剤が汚くなるまで再利用した。 代替品のゼロフラインを試験的に導入し メリクロライドとの併用を開始	○ × ○ ○
ROHS対応品販売促進		
本社 ①切替推奨ソフトウェアを作成し客先に配布	ROHS品への切替が進んでいる。	○
製造不良数改善		
本社及びいずみ野工場 ①フィードバック票を運用する。	運用する事が出来た。	○
グリーン購入		
本社及びいずみ野工場 ①グリーン購入の切替推進	JSTトップを考慮し積極的な切替には至らなかった。	△

○:達成 △:一部未達成 ×:未達成

5-2. 次年度の取組内容

5-2-1. 二酸化炭素排出量削減

- 電気 本社は目標未達成かつ基準年度よりも増加。
売上増による残業時間の増加や人員の増加が原因。
来年度は基準年度を 2023 年度に変更し、総量削減と売上高原単位の指標を併用。
いずみ野工場は目標未達。
機械増設による生産高の大幅な増加が原因。
来年度は基準年度を 2023 年度に変更し、総量削減と売上高原単位の指標を併用。
いずみ野工場の屋根にソーラパネルを設置し太陽光発電を導入する。
- ガリソ 目標を達成。継続して削減に努める。
- 都市ガス 目標を達成。継続して削減に努める。
- 液化石油ガス 目標を達成。夏の使用量を大幅に削減できた。継続して削減に努める。

会社全体として二酸化炭素排出量の目標未達。基準年度も上回る結果だった。
人員増加及び売上高や生産高が増加している事が原因の為、目標値を見直す。
次年度はいずみ野工場に太陽光発電を導入し月々の発電量を集計する。

5-2-2. 廃棄物排出量削減

本社及びいずみ野工場で目標達成。
会議では紙の資料を使用せず、クラウドを有効活用できている。
会社全体のペーパーリサイクルが進んでいる。取組は継続して実施する。

5-2-3. 水使用量の削減

本社は目標未達。人員増加が原因。基準年度を今年度に変更する。
いずみ野工場は目標達成。次年度も取組を継続する。

5-2-4. 化学物質適正管理

目標達成。
代替品のゼロウェイの試験導入を開始した。来年度はゼロウェイと併用し使用する。

5-2-5. ROHS 対応品販売促進

目標を達成。取組は継続して実施する。

5-2-6. 製造不良数改善

目標を達成。継続してフィードバック票を活用する。

5-2-7. グリーン購入の推進

コスト等も考慮し無理のない範囲で取組を継続する。

6. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反・訴訟等の有無

区分	環境関連法規等名称	遵守状況 確認・評価
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法) (一般廃棄物の処理)	○
化学物質	特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善 の促進に関する法律 (P R T R法) SDS制度	○
資源循環 (リサイクル)	特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法)	○
	使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律 (小型家電リサイクル法)	○
大気汚染	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (フロン排出抑制法)	○

当社に關係する環境関連法規などは上記の通りですが、遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関連機関からの違反等の指摘、環境関連の訴訟も過去3年間ありません。なお、外部からの苦情は活動期間中にはありませんでした。

7. 代表者による全体の評価と見直し・指示

弊社が環境への取り組みを効果的に行う事を目的にエコアクション21 認証を受け 6 年目が終わり、持続可能な社会の実現に向けて積極的に環境への取組を進めることができました。

売上高と生産高の増加や地球温暖化の影響による夏の暑さもあり電気使用量の目標達成ができませんでした。7/7-10/10につき受注量が増えている為 2024 年度は現状を踏まえた数値目標を設定します。

水使用量削減目標は人員の増加が原因で未達成となってしまいましたが、そのほかの項目については目標達成ができました。この成果は社員一人一人の意識向上によるものだと思います。

今年度の取り組みを通じていくつかの課題も明確になりました。特にいずみ野工場の電気使用量については、設備投資と生産量増加の影響があるので、再生可能エネルギーの太陽光発電パネルを設置する計画を立てていきます。

全社員の意識をさらに高める為に、定期的な会議の中でエコアクション 21 の要件に適合するディスカッションを行うと同時に、地域貢献を通じて社会全体の環境意識の向上に寄与します。

2023 年度も一定の成果を上げることができましたが、まだ改善の余地があります。

来年度はさらに全社一丸となり社会的責任としてエコアクション 21 の取組を継続していきます。